

世界遺産 浄土の旅

--北東北 春の旅 2/3--

5/2/2014

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

4月初めに横浜で桜鑑賞後、今年は桜前線の北上とともに、4月22日から北東北で2回目の桜鑑賞ができる旅に出かけました。今回は前回の被災地めぐりに引き続き第2回目「浄土の旅」をお伝えいたします。

北海道に次いで2番目に広い面積の岩手県。今回は、この岩手県を2泊3日で駆け巡ってきました。初日は、「平泉-仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」で世界遺産に登録された毛越寺と中尊寺です。平泉駅で下車後、予約してあった「案内付のタクシー」の運転手とご対面です。約3時間のガイドと移動でした。街は世界遺産登録前に、電線の地中化と道の拡幅で立派な趣のある街となっていました。またのぼりなども少なく観光客にとっては穏やかな時間を過ごせました。

私は、世界遺産の対象分野も知らず、この土地に来て驚いたことは、この地が1,100年頃、藤原清衡が仏教文化を中心とした、黄金花咲く平泉文化-平和な理想郷の建設だったということでした。それが、現在も受け継がれており、まさに京の文化と思わせる風景がいたるところにありました。

現在はお寺より庭園が有名になった毛越寺では、池に船を浮かべている風景があったり、曲水の宴(現地では“ごくすい”と呼ぶ)では、庭園の鑪水に盃を浮かべ、流に合わせて和歌を詠む。まさに平安時代の遊びがあったようで、5月下旬にはその宴が毎年開催されるとのことでした。

また、8月16日には、浄土庭園法灯会が開催され、まさに浄土そのものの土地なのです。やはり訪れたいシーズンは5月中旬の新緑が鮮やかなときかと思われます。

今度は車で5分ほどの中尊寺に行く前に、源義経の最後の地という、「高館義経堂」に立ち寄りました。ここから見る北上川と東稲山のふもとの田園風景は自然の絶景でした。



毛越寺の大泉が池



北上川と東稲山(大文字焼き)

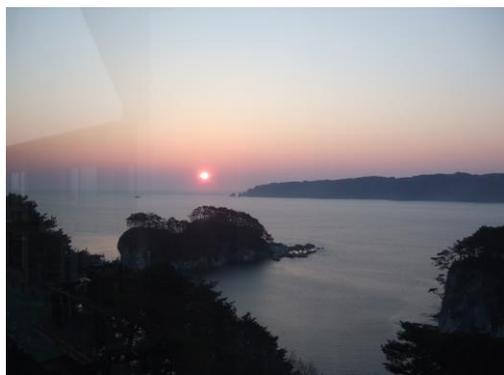
高館義経堂では、後に松尾芭蕉が「夏草や兵共が夢の跡」と詠んだ場所です。



中尊寺 金色堂入口

さて中尊寺です。あの有名な「金色堂」のあるお寺です。平日にもかかわらず参拝の観光客で賑わっていました。ここは天台宗の東北大本山です。すでに1,200年ほどの歴史があるお寺なのです。金色堂は金箔で覆われており、それはまぶしいものでした。この金色堂の中に、藤原家4代の当主のご遺体が安置されているとのこと。その時空を超えた姿にしばし見とれました。

翌日の泊りは、宮古市の近くの「浄土ヶ浜パークホテル」です。ここの地名も浄土でした。ここは江戸時代の僧が「さながら極楽浄土のごとし」といったことから名前がついたもののようです。砂浜だと思いきや、拳くらいの大きな石の浜でした。ここはあの津波の後に、浜が狭くなったようですが、遠くから見える景色は絶景でした。本当に北東北の地は、浄土の国なのです。



浄土ヶ浜方面に朝日を観る



浄土が浜